

# 佐賀大学医学部 松尾清美研究室は 高齢者や身体障害者の自立（律）生活行動支援を実践！

佐賀大学 医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門 松尾清美（准教授）

## 【研究テーマ】

「リハビリテーション医工学分野から見た生活行動支援学および教育方法の構築」、  
「福祉機器や生活環境の設計研究」、「生活動作と移乗動作分析に関する研究」、  
「福祉機器の選び方と使い方、および使い易さに関する評価方法・手法の研究」、  
「移動機器と移動動作に関する研究」、「社会環境の車いすでの使い方研究」、  
「褥瘡予防方法と褥瘡予防機器の開発に関する研究」など



【研究概要】 松尾研究室では、医学的な治療後も身体機能に後遺障害が残る高齢者や障害者、傷病者、一時的な障害などに対する医療支援技術および在宅や社会での生活行動支援技術とその役割や考え方、情報発信方法、具体的な支援方法などについて、対象となる人々への実際の生活行動支援を行いつつ、専門職への教育方法を構築しています。

【生活環境要素と自立（律）生活の考え方】 人間の生活環境要素は、図1のように表すことができます。

自立を促進するためには、器具と住環境を本人に適合し、排泄や入浴、移動や移乗などの動作方法を決め、毎日繰り返して、その生活に慣れることが大切です。そして、どうしても自立できないときに、家族や介助者の人的援助を得るといった考え方が大切なのです。

身体機能に四肢麻痺などの重度の障害が有り、自分の力では全く移動することができない場合でも、生活方法や生活時間、介助内容や方法などを自分で決めるのです。そして、介助者の支援を得て、仕事や目標などに向かってできることを増やしたり、生き甲斐を見つけることが大切なのです。このような生活を自律生活と呼んでいます。

その支援活動の一つとして、NPO や社会福祉法人などの協力を得て、身体に重度の障害があっても自律生活をめざす支援システムを構築しようとしています。

図1の円の中は、住宅内の要素です。住宅内での生活方法が安定して初めて、社会環境へ出て行く勇気と希望が湧いてくるものです。身体障害者の中でも肢体不自由者にとっては、身体機能や生活方法に適した福祉機器の選択と住環境整備を整備し、社会環境を改善

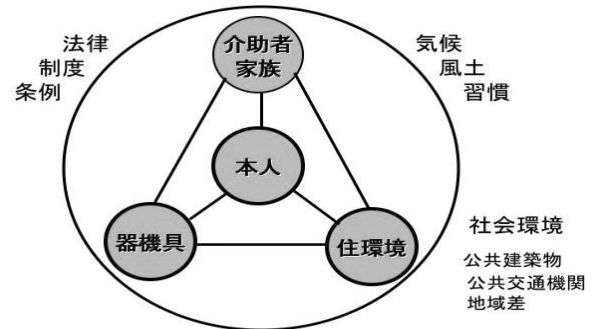


図1. 生活環境要素

していくことは、本人の社会活動や生きがいを支援する上で重要なことです。福祉機器の適用や住宅改修は、多くの場合、情報提供や使用方法、入手支援、適応指導、生活動作のシミュレーション、生活イメージの構築、住環境の整備後のアフターフォローなどの支援の過程とそれらの集積によって実現することができると考えられ、本当の生活行動支援と呼ぶことができます。

【実際の生活や動作分析から機器を開発】 既存の開発品としては、座り心地と立上りや座り易さにこだわった椅子や寝心地や移乗のし易いベッドなどがあります。椅子は使う人の体格に合わせてS, M, Lの3つのサイズから選択でき、座り心地を良くするため体圧分散に優れ且つ通気性の良い材料を採用しました。ベッドはギャッジアップしてもズレのない機構を開発し特許を取得しました。その他、佐賀大学知的財産として登録された「前かがみ姿勢を容易にとれる車いす」や理美容や歯科治療などに使える「多目的椅子」などを開発しています。これらは、自立を目的とするだけでなく、介助者の腰の負担などを軽減することも考えて開発しています。



松尾清美実験室の状況



開発例：リラクトチェアー      スタンディングエイド

※ 松尾研究室のホームページアドレスは <http://matsuokiyomi.com> です